五十嵐委員提出資料

- 「職場のメンタルヘルス対策における産業看護職の役割」に関する報告書（平成18年7月19日日本産業衛生学会発行）

「職場のメンタルヘルス対策における産業看護職の役割」
に関する報告書

平成 18 年 7 月 19 日

日本産業衛生学会
「職場のメンタルヘルス対策における産業看護職の役割」
検討ワーキンググループ

「職場のメンタルヘルス対策における産業看護職の役割」マニュアル目次

第1章 メンタルヘルス対策における産業看護職の役割

1. メンタルヘルス対策と産業看護職
2. 「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に則つての産業看護職の役割
 - 1) 「衛生委員会における調査審議」に向けた情報収集・分析と関係者間の意見調整
 - 2) 「心の健康づくり計画」の策定と実施に向けた支援
 - 3) 「4つのメンタルヘルスケア」の推進に向けた支援
 - 4) 「メンタルヘルスに関する個人情報保護」のための支援
3. 事業場規模別活動事例
 - 1) 大規模事業場：専属産業医と常勤産業看護職
 - 2) 中規模事業場：非常勤嘱託産業医と常勤産業看護職

第2章 職場のメンタルヘルス対策における産業看護職の貢献

- ・ 精神科専門医の立場から
- ・ 産業医の立場から
- ・ 事業者の立場から
- ・ 日本経団連の立場から
- ・ 労働組合の立場から
- ・ 労働局の立場から
- ・ 労働基準監督署の立場から
- ・ 産業保健推進センターの立場から

本報告書の作成にあたって

近年我が国の経済・産業構造の変化、さらに技術確認の急速な発展は、労働者を取り巻く環境にも大きな変化をもたらしている。例えば、雇用形態の変化、終身雇用から成果主義や裁量労働制の導入、在宅労働者の増加、退職金制度の廃止から年俸制への移行などである。こうした社会状況の中で、職場におけるストレスを感じている労働者の割合や長期欠勤・休業者のうつ病の事例が増加し、労働者の自殺者も年間9千人前後に達するまでに至っている。仕事や職場で強い不安や悩み・ストレスを感じている労働者の割合は9割を超えているという調査報告もある。職場におけるメンタルヘルス対策が重要な課題として近年特に重用視されている所以である。

この様な社会的ニーズの中で、国は「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」(平成12年)、「労働者の心の健康の保持増進のための指針」(平成17年)と、次々に指針を出したことは、職場におけるメンタルヘルス対策がいかに重要であるかを裏付けるものである。

平成18年3月、日本産業衛生学会は、産業保健に携わる専門職集団として、厚生労働省労働衛生課長から諮問を受けて「職場のメンタルヘルス対策における産業看護職の役割」に関するワーキンググループを立ち上げ、産業看護職が職場のメンタルヘルスカケアにおいて果たす役割について検討した。本報告書はその検討結果をマニュアルとしてまとめたものである。

産業看護職が、産業医、衛生管理者、心の健康づくり専門家等の産業保健スタッフとともに、チームとして、それぞれの職種の特性を活かし、役割を担いながらかつ密接に協力し、事業者と労働者が行う労働安全衛生活動の1つである職場のメンタルヘルス対策を専門家として支援するにはどうしたらよいか。事業場規模別の取り組みはどうあるべきか。さらにこの領域における産業看護職の活動実態を表す貴重な情報として、現場で問題を抱えるそれぞれの立場からのご意見も、本報告書に含めることとした。

本ワーキンググループで作成されたマニュアルの細部については、さらに検討すべき課題も残されている。しかし、本報告書は、職場のメンタルヘルスカケアにおける産業看護職の役割について一定の枠組みを提示したものであり、価値のあるものと考えている。今後の職場のメンタルヘルス対策の方向性を検討する際の基礎資料になるものと期待している。

日本産業衛生学会
理事長 清水英佑

第1章 メンタルヘルス対策における産業看護職の役割

1. メンタルヘルス対策と産業看護職

近年、経済・産業構造の変化や高齢化の進展など労働環境は大きく変容し、それに伴い生活習慣病予防のための健康増進活動と共に、メンタルヘルス対策が多くの職域で取り組みの重要課題として位置づけられている。働く人々にとって、精神の健康は身体同様の健康と同様、職業社会に寄与・貢献していくための大切な条件であり、心の健康の保持・増進、不調の予防と早期発見、有病者の職場適応等を課題とした職場のメンタルヘルス対策に向けた組織的取り組みは職域における健康文化確立の重要な柱である。

心の健康を維持するためには、人間としての統合された機能・能力が求められる。一方その均衡が保てず、不調に陥ってしまった場合、職場においては症状が仕事・組織や人間関係等の問題のからむ事例性として表出されることが多く、状況の正確な理解・対処のためには職場と専門職との連携が不可欠である。産業保健スタッフの一員として労働の現場との密なかかわりを役割特徴の一つとする産業看護職は、メンタルヘルス対策におけるすべての段階で、活動の重要な立場にある。

看護職は産業保健活動における援助専門職としては最も数が多い。大規模事業場での看護専門職は、既に多くがそのメンタルヘルスケア実践を通して存在と役割に周囲の認知を得ており、中規模事業場または規模の小さい事業場における取り組みでは、非常勤の嘱託産業医業務の多くが日常の産業看護職の現場活動によって支えられていると言っても過言ではない。

産業看護職は職場のメンタルヘルス活動において、現実にはさまざまな役割を期待され、意味のある活動実績を示している。

産業看護活動の特徴

産業精神保健チームにおける産業看護職は、チームの連携のもと労働者の身近な援助者として、種々の労働環境におかれた一人ひとりの生活世界にメンタルヘルスの側面から継続的にかかわり、さらには集団・組織にも働きかける。それぞれの事業場のニーズに沿った働きかけは第1次予防から3次予防まですべての段階にわたり、これら産業看護職による取り組みは労働者のメンタルヘルスに関する包括的支援活動である。

〈 疾病の概念を超えウェルネスを目指す 〉

ストレスの早期発見・対処やメンタルヘルス不調の予防など、疾病予防の視点からの活動はこれまでも多くなされている。しかし、ヘルスプロモーション活動として、一人ひとりの労働者が主体的に自身の職業人生を作り出していけるよう、労働環境や職業生活全体を視野に入れた、組織的な心の健康づくり対策としての取り組みが職場のメンタルヘルス活動の課題である。

健康は充実した人生をおくるための重要な手段であり、そのためには自身の健康は自ら管理せねばならないとするウェルネスを目指した活動は、労働者のQOLの向上につながり、産業看護職が職域における看護の展開として目指しているものでもある。産業看護職は精神面も含めた総合的に健康な職場づくりのために、職場側の主体的かかわりを促進・